



令和6年 能登半島地震 災害ボランティア報告会

2025年1月10日(金)

大阪公立大学ボランティア・市民活動センターV-station

V-station 災害チーム



災害チームって？

様々なきっかけをもって「災害」「防災」「復興支援」等のキーワードにピンと来た人たちが集まって活動しているチームです。

普段から、地域のイベントで防災啓発活動をしたり、学生間での勉強会をしたりしています。

2024年は能登半島地震による被害があったため、災害ボランティアバスを運行する活動を主に行いました。今後も、少しでも被災地の力になれるように活動を続けていく予定です。

イザ！ カエルキャラバン！

堺市防災センターにて、親子向けの防災体験プログラムを、堺市さんのもとで実施しました。



2024年3月

長野被災地ツアー

1泊2日で長野県市に宿泊し、令和元年東日本台風による被害やそこからの復興過程、今後の課題などについて学びました。



2023年10月

能登半島地震 災害ボラ

大学生協と協力してボランティアバスを運行し、被災地で支援活動を行いました。



2024年10月

堺市さんに
特集していただ
いた記事

[こちら⇒](#)
※クリックでリンク先



目次

- 地震・大雨の概要(被害状況も含む)
- 活動報告
 - 現地での活動(全5回+特別編)
 - 大阪での活動
- 学生の感想
- これから取り組むこと

地震・大雨の概要

地震の概要

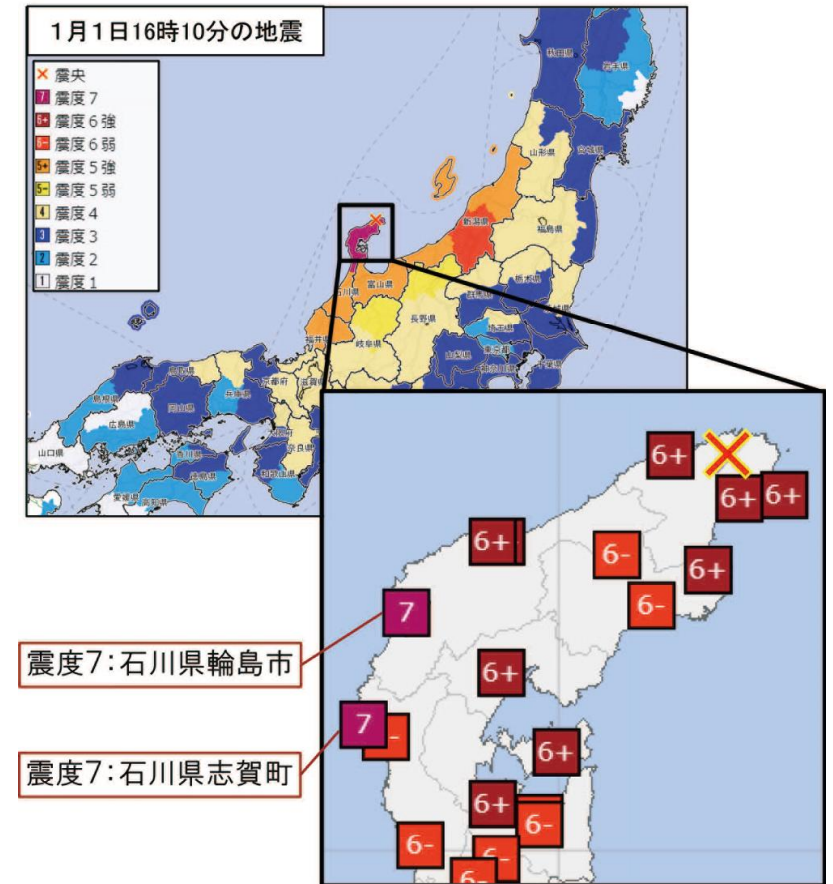
- 名称 令和6年能登半島地震
- 発生日時 令和6年1月1日16:10
- 規模 マグニチュード7.6
- 震源の深さ 16km
- 各地の震度

震度7 石川県志賀町、輪島市

震度6強 石川県七尾市、珠洲市、穴水町、能登町

震度6弱 石川県中能登町、新潟県長岡市

震度5強 石川県、新潟県、富山県、福井県で多数



https://www.bousai.go.jp/kohou/kouhouhoubousai/r05/109/special_01.html

地震による人的・住家被害

- 死者 489人
 - うち災害関連死 261人
 - 行方不明者 2人
 - 負傷者 1,379人
 - 全壊 6,445棟
 - 全壊以外 143,279棟
- (内閣府防災情報より) 2024年12月24日現在)



大雨の概要

- 名称 令和6年9月奥能登豪雨
- 日時 令和6年9月20日から22日にかけて
- 概要(金沢管区気象台より)

9月21日から22日にかけて、日本海の低気圧や前線に向かって南から暖かく湿った空気が流れ込んだため、大気の状態が非常に不安定となり石川県能登では記録的な大雨となった。

- 気象情報など

21日09:07 顕著な大雨に関する石川県気象情報(第1号)

21日10:50 大雨特別警報(輪島市、珠洲市、能登町)

大雨による人的・住家被害

- 死者 17人
- 負傷者 64人
- 全壊 110棟
- 半壊・一部破損 695棟
- 床上・床下浸水 956棟

(内閣府防災情報より 2024年12月24日現在)



活動報告

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
大阪での活動	ボランティア説明会	募金活動			学園祭チャリティー		OSN定例会にて寄付呼びかけ				OSN大学生部会キックオフ	
現地での活動			ボラバス①【生協共催】	自主活動		ボラバス②【大学主催】		ボラバス③【OSN主催】		ボラバス④【OSN主催】		ボラバス⑤【OFIX主催】



地震発生

1/18 災害ボランティア説明会

③ - 1 災害ボランティアとは【2】

被災地での災害ボランティア活動例



(参考) 政府広報オンライン：被災地を応援したい方へ 災害ボランティア活動の始め方
<https://www.gov-online.go.jp/useful/article/201909/4.html>

- 能登半島地震の被災地支援ボランティア活動の実施に向けた説明会

- 大塚耕司 先生

- 菅野拓 教授
：被災地の状況説明

- ボランティア・市民活動センター
V-station職員 松居 勇
：災害ボランティア活動の注意・手続事項

1/24~2/16 募金活動



- 1月24日(水)~2月16日(金)の間、各キャンパスに募金箱を設置
- 募金(517,264円)
- 全額を被災自治体等への義援金として石川県大阪事務所へ

第1回 ボランティアバス

- 日程 2024年3月27日(水)～29日(金)
- 場所 石川県志賀町
- 参加者 13名(学生9名(※) 社会人1名 事務局3名)
(※) 近畿大、大阪大、大阪公立大
- 活動内容 海岸の清掃、家屋の片づけなど
- その他 大阪府生活協同組合連合会と共同で実施



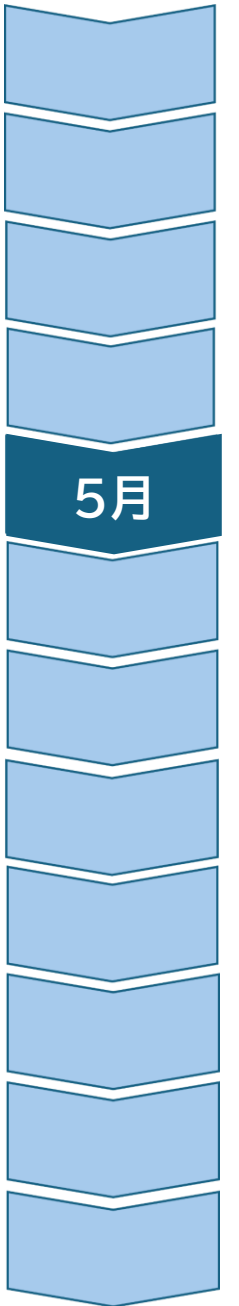
3月





ボランティアバス特別編 (学生による自主活動)

- 日程 2024年4月29日(月)～5月1日(水)
- 場所 石川県輪島市門前町黒島町
- 参加者 20名(学生8名(※) 社会人1名 職員1名)
(※)大阪公立大
- 活動内容 家屋の片づけ、炊き出し支援、福祉施設訪問など
- その他 参加者が全ての費用を負担して実施









5/25 チャリティー活動(学園祭)



- 能登の輪島にある藤田総本店の名物である串揚げを取り寄せ、学園祭で販売しました
- 利益の一部を寄付させて頂きました。



5月

第2回 ボランティアバス

- 日程 2024年6月14日(金)~16日(日)
- 場所 石川県輪島市門前町黒島町
- 参加者 14名(学生12名(※) 事務局2名)
(※)大阪公立大
- 活動内容 家屋の片づけ、被災された方との交流など
- その他 日本財団ボランティアセンターとの共催により実施



6月



第3回 ボランティアバス

- 日程 2024年8月16日(金)~18日(日)
- 場所 石川県輪島市門前町・能登町
- 参加者 39名(学生33名(※) 社会人4名 事務局2名)
(※)追手門学院大、大阪経済法科大、大阪公立大、近畿大、
摂南大、同志社大、桃山学院大、立命館大
- 活動内容 家屋の片づけ、イベント・地域のお祭りの手伝いなど
- その他 おおさか災害支援ネットワーク主催により実施(第1回)



6月





水害発生

第4回 ボランティアバス

- 日程 2024年10月11日(金)~13日(日)
- 場所 石川県輪島市黒島町・深見
- 参加者 35名(学生30名(※) 職員1名 社会人4名)
(※)大阪大、大阪公立大、檀原高校、近畿大、神戸電子専門学校、
桃山学院大、龍谷大、立命館大
- 活動内容 床下の泥掻きだし・家具の運搬など
- その他 おおさか災害支援ネットワーク主催により実施(第2回)
クラウドファンディングからの支援を受け実施
(145名、857,000円)



10月



第5回 ボランティアバス

- 日程 2024年11月29日(金)~12月1日(日)
- 場所 石川県輪島市門前町深見
- 参加者 13名(学生7名(※) 社会人2名 事務局4名)
(※)大阪大、大阪公立大
- 活動内容 瓦礫の片づけ、床下の泥掻き出し、
根太のブラッシングなど
- その他 大阪府国際交流財団(OFIX)主催により実施



学生の感想

被災地の現状を見て・聞いて

- 地震から半年経っても復興が進んでいない状況に驚いた。
- 地震はただ揺れるだけではなく地形まで変わってしまうことなど、現地で見て聞いて驚くことがあった。
- (子どもが近くに住んでいないという話を聞いて)子ども世代が地域に戻ってこないのが問題だと感じた。
- (周りの家は取り壊され、家主の方も今後住み続けるか迷っておられる話を聞いて)災害によって地域から人がいなくなってしまうことが悲しく感じた。
- 地域の祭りや伝統についての話をたくさん聞いたが、そもそも自分の育った町のことをそんなに知らないことに気づいた。

被災された現地の方々と交流して

- 現地の方々には温かく迎えてくださり、優しく話しかけてくださることにとっても心が暖かくなった。
- みんなで協力して能登半島の復興を目指して前向きに頑張っている姿にとっても勇気づけられた。
- 被災された方々の生の声を聞くことで高齢化や産業、伝統文化の衰退といった地域の課題を知ることができた。
- 親戚が南海トラフ巨大地震で大きな被害が想定される場所に住んでいるが、改めて、自分で命を守る方法を伝える必要があると感じた。

現地で活動するボランティアと接して

- 輪島にゆかりのない方が復興に対して熱い思いをもっていることが衝撃だった。
- 現地でリーダーとして引っ張っていくボランティアの方の重要性を感じた。
- 私たちがボランティア活動をするにあたり調整をしてくださった方もボランティアだったことを知り、ボランティア間の連携も必要だと感じた。

家屋の片づけ活動をやってみて

- ボランティアとして淡々と作業を進めてしまったが、自分の家だと思うと悲しい気持ちになった。
- (何でもかんでも)断捨離するような勢いで処分してしまったが、被災された方と取捨選択する時間が持てれば良かった。
- 活動した家以外にも片付いていない家がたくさん残っているのを見ると、今回の地震の被害の大きさと復興の困難さを痛感した。
- 手付かずの場所について、「申し訳ないから(追加では)お願いしなかった」と言われたが、どのように声をかければよいのか考えさせられた。

家屋の泥だし活動をやってみて

- 泥や土の臭いや倒壊した建物から恐怖を感じ辛かった。
- どうしようもない雰囲気と自分の無力さを痛感した。
- 床下は狭くて暗いうえに泥が水を含んで重くなっているため、少人数ではなかなか作業が進みにくいと感じた。
- 重機が入らないような細かい部分も多く、地道に人力で作業をするしかない。みんなが思うよりも簡単に復旧が進むわけではなく、人手がもっと必要であることが分かった。
- 1日だけでもとても大変だと感じたので、これを毎日続けておられる家主の方の気持ちを考えると、心が痛かった。

その他の活動・活動全体を通して

- 炊き出しのお手伝いは災害ボランティア初心者でも貢献しやすく、良い活動だった。
- 災害を他人事として見ていたが、活動に参加することで意識を向けることができた。もし自分や身の回りの人が被災したらと考えさせられた。
- 望むものを勝手に推測して行動するのではなく、被災された方の声を聞きながら活動するのがボランティアとして正しいと思った。
- 大人数で少しずつ頑張ることで、大変なことも可能になることがわかり、ボランティアの必要性を強く感じた。
- 「微力だけど無力じゃない」という言葉を胸にボランティア活動を続けていきたいと感じた。

これから学生にできること

- 訪れた地域の方とのつながりをこれからも大切にする。
- 継続的に災害ボランティアに参加する。
- 農業支援など、別の形の支援に参加する。
- 友人や家族、先輩等に話したり、現地の写真を見てもらうことで、災害ボランティアや能登半島に関心をもってもらう。
- その町の魅力をもっと知り、特産品を購入する。ふるさと納税をする。観光で能登半島を訪れる。

これから取り組むこと

これからできること(過去の活動)

・写真展



・追悼イベント



これからできること(過去の活動)

・物産展(学園祭での模擬店)

・写真洗浄



これからできること(過去の活動)

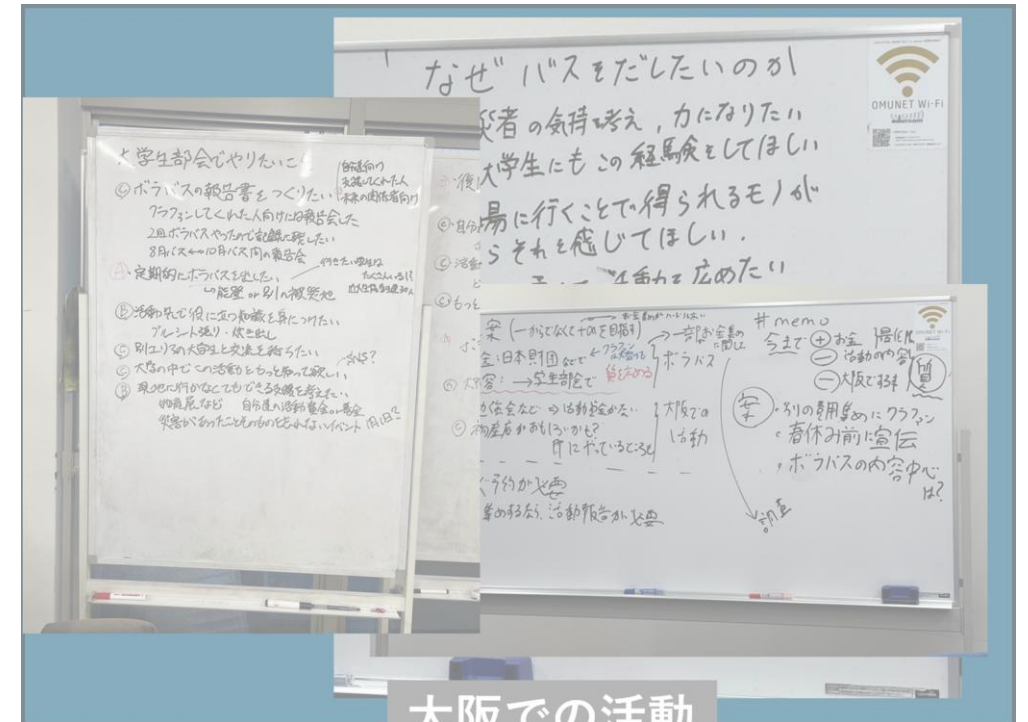
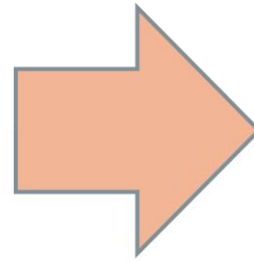
・現地の方を大阪に招く



・被災地ツアー(研修)

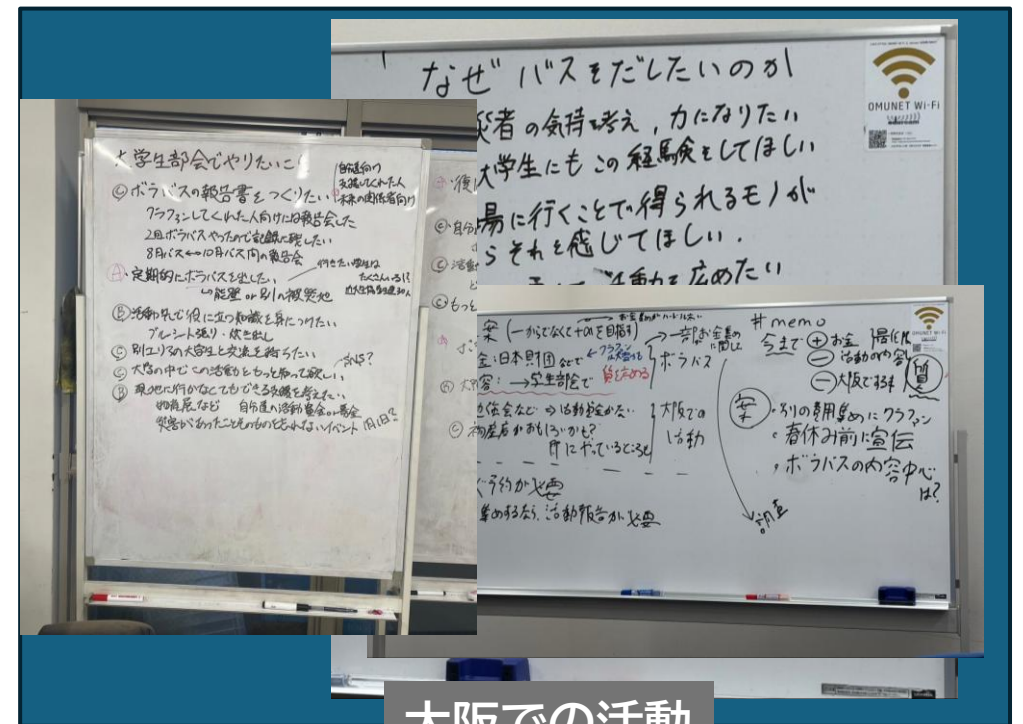
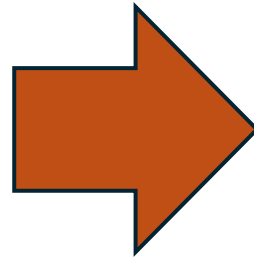


OSN大学生部会の活動について



能登半島地震ボランティアではボランティアの大変さ、一人での限界、そして人のためになるボランティアの喜び、自身が必要とされているという確信を得ることが出来ました。3日間だけの関わりではなく、より長く、参加者としてではなく主体者としての関わりを探るようになりました。

OSN大学生部会の活動について



私たちは活動の中で問題意識や目標を共有する仲間を見つけることが出来ました。
仲間たちでOSNの大学生部会として活動していくことになりました。
OSNの活動は始まったばかりですが、会議を重ねて問題や目標の共有を行ってきました。
現在は3月に大学生の大学生によるボランティアバス実行に向けて活動しています。

OSNとは(詳細)

- おおさか災害支援ネットワーク(OSN)では、大阪府域の災害時に速やかな支援活動を実現するために、多様な市民セクター、企業・団体等が行政や関係機関と連携して、平時から災害支援にかかわる「顔の見える関係づくり」を目指して、学びと情報交換を中心に年に2回の定例会、専門部会等を開催しています。
- 大学生部会は、7つある専門部会のうちの1つで、災害時における大学生間の連携を広域的かつ効果的に行い、被災者支援を円滑に行うための取り組みを行います。

[おおさか災害支援ネットワーク\(OSN\)](#)



[OSN大学生部会](#)



